

The Obsidian Times



Pickup Artist

...○【サイレンス】

2016年リリースの作品「psycho:lens」、2023年3月からzoisite通販での取り扱いを開始しました。改めてこの作品の良さを多くの人に伝えたいと思い、当時オフィシャルサイトに掲載されていたアルバムインタビューをお届けします。

●ついにサイレンスの新しいアルバムが出来ました。なんとも直球なジャケットになってますが(笑)。

想：そうですね(笑)。まあ、それしかねえって感じで。

●もうちょっとひねってもっていう(笑)、あのジャケットの意図は？

想：収録曲的に結構ノリノリ系な曲が詰まっているような感覚があったんですけど、完成が見えてきて、聴いてみると

意外と切な淋しい感じの曲が多くて。

●ああ、確かに切なさは感じる。

想：最初はそういうイメージで考えてたんですけど。でもバラエティ感もあって、ポップな面というのクローズアップしたかったんで、ちょうど撮影の時に使った果物があったんで……まあ、あれで1万円くらい使ってるんで使ったこうかなと(笑)。



可哀想@vocal

一同：(笑)

キリ：スーパーをハシゴして、探し歩きました(笑)。

●寒い美味しそう(笑)。

zull：そうですね(笑)。

●で、今までCDはリリースしてきてますが、サイレンスでフルアルバムっていうのは初でしたっけ？

想：初めてですね。キリちゃんが入った時に『DREAMER DREAMER』というのを作ったんですけど、あれは過去の曲を再録プラス新曲で7曲という感じでギリギリでミニだったんで。

●今回、フルアルバムを作るにあたって、ノリノリ系の曲なんていう話も出てましたけど、バンド内ではどんな話をしてたんですか？

想：収録予定の曲が4曲くらい決まってるんで、まあそこを軸にという形です。

●既にライブで演ってる曲とかもありますもんね。

想：そうですね、そこから広がっていくという感じです。

●例えば暗いアルバムにしようとか、ノリノリな感じなアルバムにしてみようとか、想さんの中ではヴィジョンがあったわけですか？

想：もともと打ち込みで始ってるバンドで、キリちゃんが入って、その打ち込みの曲も同期を残しつつ、生ドラムを交えてという感じでやってきて……で、その後、同期を一切使わない曲も演り始めてという流れがあるんです。そんな中でもベースだったり、同期のループを軸にという曲作

りのコンセプトがあったんですけど、そこじゃないサイレンス感というも出てきてる感じもあるので、まああえて何も考えずというか……。前よりもギターを弾けるようになってるとこもあるので、ギターバンド感も出るかな？というトコと。以前だと同期で補ってたものがギターになったりというのはあって。まあ……つまりどういう感じになるかな？というの全然わからなかった(笑)。

●zullさんとしてはアルバムに対しての取り組み方としてはどんなふうに考えてましたか？

zull：アルバムに対して……出てくる、出てくる曲が結構カッコいいので、バンドとしては自信をもってどんどん曲を作ってほしいかなあ？と。曲を作るキッカケになるのが結果的に音源なんですよ。音源を作るからこだけ曲を作らなくちゃいけないという状況があって、ただ過去からずっとやってきて1曲1曲カッコいいものが出来てきてると思うから、それをまとめるのには良いキッカケだっている。10曲って言ったらそれがノルマになってくるわけじゃないですか？でもそれによって曲が出来てくれば、それは絶対カッコいいから、どんどんやっていこうっていう。

●zullさんからみて、想さんの方がギタリストとしてはまだ新米じゃないですか？

zull：俺もバンドバンドしたバンドで、あんまりバンドやってないんで(笑)。

一同：(笑)

想：バンドが新米だからね。

zull：バンドが新米なんで、ツインギターとは何か？っていうのをここ2、3年ずっと考えてやってます。

想：でもここ2、3年ずっとツインギターやってるじゃん、ルナマと武竹と(笑)。

一同：(笑)

zull：そうなんですけど(笑)。ま、ツインギターのバンドとしてのポキャブラリーとか経験値はそれくらいしかないんで。今までって基本的にギタリストというよりも、ギターを持ってる人なんで。味というか、ギタリストというよりは何か乗せてきた人なんで。バンド然としたバンドのツインギターって俺全然わかんないんですよ。で、じゃあ俺がただバックアップしてたらいいの？っていったら、それ多分、全然必要じゃないし。

●自分の中ではそういうギタリストの立ち位置というのとは？

zull：すげえわかんなかった。

●今も？

zull：今はわかって来ましたが。ここ2、3年は多分わかんないでやってたと思うし、変な話ですけど3人がいて、プラス自分という状況で俺はやってたような気がします。ツインギターとは？というのはずっと考えて、いろんなツインギターのバンドとか聴いたりするんですけど、どれも当てはまらないんで、どうしたらいいかな？っていうのはずっと考えてやってます。

●想さんのギターと、自分のギターのポジションというか、振り分けとか、何か見えてきたものはありますか？

zull：それは確かにあります。

●具体的には？

zull：芯で外郭。想さんが核で、自分が外郭。が、いいかなと思います。歌があってギターがあるんで、それって真ん中じゃないですか？だけど俺はあんまり歌がわからないでギターを弾いてるんで、多分ちょっと離れてるんですよ。歌、ギターって絶対に合致してるので、それに対してどう被せていくか？っていうのは、まず考えないといけない。俺はこれが弾きたいんだ！とか訳わかんないことをいう年頃でもないんで。このサウンドにどう入っていったらいいだろうかと。

想：最初の頃、3人でやってた時って俺2曲しかギター弾いてないんですよ。4人になってからギターを全曲で弾くようになって。まあ弾きたがって(笑)。3人でやってた頃の曲にも自分なりに考えてギターをのせてくわけですけど、そこまでの曲とそこからの曲だと、やっぱりギターのつけ方が全然違うんです。核っていうか、歌いながら弾きやすいものにも移行し始めてるし、より歌に近いことを弾くようになってきてるかな？だから今の方が役割はハッキリしてきてると思うんですよ。

zull：ツインギターではないのかなあっていう感覚はありますが、ギターヴォーカルのバンドって。ツインギターのバンドって言っちゃうとヴォーカル、上手(かみて)、下手(しもて)っていう。それと、ヴォーカルがギター持ってるというのとは違うかなと。

●ツインギターっていうとどうしてもJUDAS PRIESTみたいなを思い浮かべちゃうんですけど(笑)。

想：さすが！LUNA SEAとかBUCK-TICKの話をしてるとこに(笑)。

zull：そういう基本のツインギターの形には合わないの。2人でユニゾンするっていうのもちょっと違うし、タイム感とかの問題もあるし、歌ってることに対するギターとまたちょっと違うのかなと。

●なるほど。

zull：まあ出来るようになるに越したことはないんですけど。それはまた時間を掛けて、我々のツインギター、バンドサウンド、熟成されていくもんじゃないかなと。今回のアルバムは言ってみれば、その第一歩。

●はい。

zull：ぐらいい気持ちは。ここからこのバンドはどうなっていくのかな？というところがあるんじゃないかな？過去は過去で勿論あるんだけど、俺が思うのは今がようやく第一歩、ようやくって言い方もおかしいけど第一歩で、このバンドの進化はこれからだよって思うし。

●その第一歩というのは凄く感じますね。変な話、今までちょっとした息抜きのバンドというイメージもあったけれど、今回のアルバムを聴かせて貰ってその本気度、サイレンスというバンドがちゃんと存在しているというのは凄く感じました。

zull：今までは俺、多分、手持ちでやってるんですよ。自分が持っているものだけでやってきたところはあるんですけど、これから先は何か研ぎ澄ましていかないとダメだと思う。

新しい切り口を探したり、新しいことに挑戦していかないとダメ。もう手持ちでどういかなる状況ではない。

●なるほど。ところでみんな衣装が真っ白になっちゃったのも新しい切り口？

想：あ〜あれは、1回統一してみたいというか、いつもバラバラなんで(笑)。まあやっぱりバンド感が強くなってきたからそういう話にもなったのかなと思います。

キリ：特に決めてたわけじゃないですもんね、衣装。

想：暗黙の了解的なものはなくはなかったですけど。自分は民族的な感じで……ズルメさんはエレガントにとか、折さんはアレとか。

キリ：で、間を取った感じを。

●折さん、大変ですよね？黒いところからいきなり真っ白になっちゃって。どうですか？白い自分って。

折：違和感……っていたら変ですけど、ただ……今までどうしていいかわからなかったの……

●反響はどう？既にステージにも立ってるじゃないですか？

想：何もありません(笑)。

一同：(笑)

キリ：多分折さん自身、気に入ってると思います。そんな気がします。

折：(微笑)

●キリちゃん的にはどうですか？いままでの個性的な3人がいるのと、全員統一で真っ白というのは？



Zull @ guitar



祈~いのり~@ bass

キリ：統一でも、それぞれの色を一応決めてあったり。オレンジ(想)、青(キリ)、緑(zull)、赤(祈)って。ちょっとずつそういう色を取り入れたらしてて。

●あら、でもこの間のライブで想さん妙な赤な布つけてましたけど。

想：あ〜(笑)。あれはちょっとパーツが多過ぎて、忘れものしてしまっていて。祈さんがボツった赤いパーツを持ってたんで拝借して。赤になりたかったわけではなく(笑)。キリ：交換会が(笑)。統一してるけど、ちゃんと個性が出てると思うので、今凄く気に入ってますね。

●キリちゃんは打ち込みでやってたサイレンスに誘われてドラムを叩くようになりましたよね。入った時はこうだったけど、今はこうだと思ってるっていう変化ってのは何かありますか？

キリ：最初打ち込みだったのもありますけど、入ってスタジオで曲作りするようになって、バンドっぽくなって来たなって。合わせようっていう空気が最近特に上がってきて、それが凄く楽しいですね。

●その合わせようという空気はどこから生まれて来てるんですかね？

想：う〜ん、多分俺が凄いいハクソソなんで……。

●(笑)どの辺が？

想：主にギターが(笑)。自分がズレてるのをいかに人のせいにするかっていう。みんなが合ってくれば俺は合うんだ的な促し方で(笑)。

キリ：(笑)それは言い方はアレですけど、そうやって気付いたこともあって、ここ違う、合っていないって言うてくれるところもあったり。

●で、話はアルバムに戻りますが、作るにあたってこだわったところはどんなところですか？

zull：前よりも他の人が何やってるのか？っていうのを把握した上で自分を考えて。前は曲の雰囲気がかうだから、俺はこうだなんだってんですよ。でも今は、みんながかうだから俺はこうかな？ってなってきてる。その中で自分の感覚、自分らしさ、同じフレーズ弾いても、このエフェクターかけた時とこのエフェクターかけた時ではやっぱり違うし。そういうところは凄く意識しています。例えばオルガンっぽい音が良さそうだなと思ったら、それっぽいサウンド、エフェクトにするし、単純にエレキの音が鳴ってた方がいいかなって思ったらエレキにするし。そういうところですかね。

●祈さん的にはどうですか？

祈：さっきズルさんが言ってたことの出来ないバージョンになるんですけど……周りを把握出来なくて取り組んでしまった部分が結構ありまして。そういう意味では本当にここからというか、今回こうだったんですけど、今後いい感じにしていけたらいいなあって思ってます。まああのぉ……リリリス前に話すようなアレではないんですけど(微笑)。

一同：(笑)

想：いやでも前に比べたら、全然あがってきて凄いい良かったと思う。プレイ的に。安定感も増してきてるし。すげえ頑張ったんだなあという、なんかそういうのは感じた。

●キリちゃんはどうですか？今回のアルバムを作るにあたって？

キリ：ドラムのチューニングをちゃんとしたいなっていうのがありました。歌によって曲によって、スネアの音なり、他の音なりをちゃんと作りたいなっていう。そこは出した部分であったんですけど、歌のために演奏するので、歌を聴いて音を作りたいなっていう、他の音を聴いて音を作りたいなっていうんですけど、レコーディングとしてそれは無理なので自分に自信を持つことでした(笑)。

●(笑)

キリ：これでやるってちゃんと自信を持ってやること。が、こだわりというか頑張ったとこ。完成したのを聴いて本当にカッコいいなあと。

zull：チューニングが大事だなんていうのは10曲目の「lens」ですげえ感じた。あれは正解だなんていう。

キリ：それは嬉しい限りです。

zull：ドラムのチューニングってこういうことなんだっていうのはすげえ感じました。イントロ始まった瞬間に、ああこれはこのドラムの音で良かったんだっていう。エンジニアの方とちょこちょこ、ちょこちょこやってたんで、まあわかんないで聞いてたんですけど(笑)。

想：emmuréeの初期からずっとやって貰ってるエンジニアの方で、もう16年とか。ほぼ全作品やって貰ってる方なんです。その流れでサイレンスも全部やって貰ってるん

ですけど、もうほとんどメンバーみたいなのもあって。チューニングに関して他のもところでやってたら、直した方がいいとか言って貰えないこともあると思うんですね。歌を録っても「う〜ん……悪くないんだけど、なんか変にロック感が強過ぎる」とか意見してくれるんで。まあ昔はそれにムカついたりもしてたんですけど(笑)。

一同：(笑)

zull：ヤバい、これは(笑)。

想：大丈夫、そういう仲なんで(笑)。そうやって一緒に作ってる感じなので俺の人は完全にメンバーですね。

●そうやって言ってくるっていうのはそれだけ責任を持ってくれてるわけだから、一緒に物を作ろうっていう。それにムカついていた昔の想さんはそういう余裕がなかったっていうことですよ(笑)。

想：そうですね、やっすいプライドがあったんでしょね(笑)。

●想さんとしてはこだわったところというの？

想：そうですね、やっぱりチューニングをちゃんとするってことですかね、俺は(笑)。今回かなりマメにチェックしましたね。あとは……俺だけの特権としてはその後に乗る歌を想定して、歌のダイナミズムを意識しつつ弾いたりとか。前よりはそういう余裕も出てきましたね。

●成長してるんですね。

想：さらに俺だけの特権として、歌った後にそれに合わせて弾き直したところもあります(笑)。

キリ：(笑)それ羨ましい！

zull：まあでもそういうことですよ。

●想さんっていう個人で見ると、emmuréeとサイレンスはどこが違うのって思う人もいると思うんだけど？

想：まあ簡単に言ってしまうえば、メンバーが違うっていう話にはなってしまうんですけど。それは、例えば曲を作るにしても、ハルカさんが弾いたらカッコいいなっていう曲と、ズルさんが弾いたらカッコいいなっていう曲は違って。emmuréeでやれないことをサイレンスでやってるってこともなくて。emmuréeでやれないことってのは実際ないし。でもemmuréeではやりたくないなっていうことはあって。やっぱり emmuréeの方が構築されてる世界というのが深いので。

●emmuréeというバンドのイメージを崩したくないから、こういう曲はちょっとやりたくないって？

想：とうより emmurée って、かなりバラエティに富んだ曲をやってて……崩したくないっていうよりは崩し続けてるっていう感じですかね。広げるというよりはより深くという感じもありつつ。

●emmuréeでやりたくないなっていう曲はサイレンスでは？

想：そういうことでもなくて、サイレンスはサイレンスで、またそういうサイレンス感みたいのがあるので。まあ自分の。今はそういう emmurée とサイレンスっていう自分の中のバランスが凄いいですね。今回のアルバムを経て、次 emmurée ではこんな曲が演りたいとか出てくるものもあったり。

●今回のアルバムでそれぞれ推し曲というの？

想：まあ全部という感じにはなってしまってますけど、そこを敢えていうならば「プラネタリウム」ですかね。ライブで演ってた時とサビの歌詞とメロが違ってグッとくる度がかかり上がってますね。歌ってグッとくるというよりギターを弾いて泣きそうになるという(笑)自分の好きな哀愁感が詰まってる曲なのかなって。

●ズルさんはどうですか？選ぶの難しいと思うんですけど。

zull：難しいですね……まだライブでやってない曲もあるんで。

●それも含めて、例えばライブで演ったら楽しそうとか、演るのが楽しみだって曲は？

zull：それはもう「薔薇」に決まっちゃいますよ！

●あ〜、「薔薇」ですよ、やっぱり(笑)。

想：あれはもう俺がチバユスケだったらデデデって弾き始めた瞬間にフロアがヤバいことになる系な。残念ながらソウカイなんですけど(笑)。

zull：まあそういう熱もありつつ、でもサイレンスなんですよ、アレは。俺も込めたフレーズには青春時代の全てをぶち込んだくらいなフレーズは入れてきてるんで。ある程度、オマージュじゃないですけど。今後この曲がどうなっていくのか、凄いいと思います。これ聴きたい為にライブくるヤツがいてもいいと思うし。

●祈さん的にはどうですか？



キリ@ drums



祈：……難しいですね……やっぱり全部いいなって思うんですけど最後に録ったっていうのもあるんですけど「lens」が。サイレンスっぽいループ感もありつつ新しい感じもあって。

●「lens」ってライブでは？

想：やってないです。一番最後に作った曲ですね。

●キラちゃんの性的には？

キラ：凄く悩むんですけど……言われた感もあるんですけど（笑）、例えば今、電車で2駅で聴くんだったら「薔薇」っていう、パツと印象に入ってる。「lens」もライブで歌ってる感じがみたいですね。で、いったらでも「春誘う風にのせて」は新鮮かなって思う。中々ない曲かなって。

●ちなみに私は「Navy daydream」が推し曲です。これが「薔薇」ですね（笑）。

想：あー、「ネイビー」もいいですね。「やさしいせなか」とか「AQUARIUM」とか今回は入ってないですけど「マヨネーズ」とか、ノリノリな感じ、わりとそっち寄りに傾いてるかなって感じてたんですけど、出来上がってみると結構しっとりとしたアルバムに仕上がって。アルバムの曲はワンマンでは全曲演ると思うんですけど、セットリストを考えるのがなかなか難しいという感じですね。演る曲は全部決まってるんですけど、曲順が。

●そこは頑張っていたらできたく、2016年3月13日には

待望のワンマンということになりますけど、どんなものになりたいと思ってますか？

zull：もうワンマンとか観た帰りは、なんかもう楽しく帰ってほしい。俺がそうなんで。ワンマンとか観たあとはそのバンドの曲を聴きながら帰りたいなって思うし。話せる仲間がいたり、いなくなったりもすると思うんだけど、今日はずっとこのバンドの話をしていたいなあって思いながら帰っていたらいいのかな。

●祈さんはどうですか？

祈：そうですね……ワンマンで初めてやる曲もあるのですが、馴染みのある曲も、新しい曲も、何か胸に残して貰えたら嬉しいし、その日に居て良かったと思って貰えるような時間になれば嬉しいかなって思います。

●キラちゃんの性的にはどんなワンマンにしたいと思ってますか？サイレンスでは初ワンマンになりますか？

キラ：バンドやってきた中でも数えるほどしかワンマンやったことはないんですけど。サイレンスでは初で……どうなるんだろうっていう（笑）。楽しみです、単純に。

●想さんの性的には今の意気込みとしては？

想：そうですね、やっぱり集大成というか。すげえ練習してるし、観にきた人に今までの練習してるっていったのは嘘なんだなってくらい見違えてほしいですね（笑）。いい空間をご用意してお待ちしております。

interview & photo : Reiko Arakawa(zoisite)

emmurée



2022年、ベージスト朋の脱退、活動休止の発表を行った emmurée。その発表直後のインタビューと3人での最後となった7月2日鹿鳴館ライブ終了後に行ったインタビューの2本立て。比べていただくとだいぶ雰囲気の違いが。そして3人での最後の音源となるCDについては、想「終着点であり、始まりでもあり、20有余年の歴史が生んだ一作。よろしく!」、ハルカ「感覚切迫過呼吸イライラ閉塞 ジ・エンド」、朋「長いことバンドをやってきて、初めて“作るぞ”とドラムの打ち込みから曲を作りました。素敵な場を設けてくれたメンバーに感謝です」と語る。emmurée ファンのみならず、この界隈の住人の皆さんのマストアイテム!

IOLITE - アイオライト -

現在活動休止の Lament. の悠歌 -youka- が、2020年03月より始動させたソロプロジェクト IOLITE - アイオライト -。この【Drawing Notes】はアイオライトのファースト・ミニアルバムとなる。サポートメンバーに、杏太 (Gt / ホタル)、山本伸彦 (Ba / 稲山梢・Purpleleon suicides)、キラ (Dr / luin・...)。【サイレンス】を迎えての今作は、サポートメンバーが作曲を手掛けた楽曲も織り込まれており、よりバンドらしく、より各メンバーのカラーが明確に提示された作品となっている。

既にライブでも披露されており、2022年のライブを彩ってきた【Prayer】【ポラリス】【朽澄空】をはじめ、今作に向けて書き下ろされた【畢生 -hissei-】【Drawing Notes】【この想いに名前はない】と2022年、初のデジタル音源としてリリースされた【Beyond the Landscape】【HUMAN ERROR】の Remastering Ver. など、今まで以上に多彩な楽曲陣が収録されている。

Interview & Photo Book + 3songs CD

『幽閉された世界 -Closed gate-』

4,000 yen (tax in)



【収録曲】

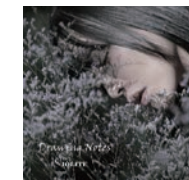
- M-1 「DEATH -type II-」
Words : 想 / music : ハルカ
- M-2 「Geragera」
Words : 想 / music : 想
- M-3 「詠人知らズ。」
Words : 想 / music : 朋

【フォトブック】

- P40 カラー A5 サイズ
- ライヴフォト
- バンドインタビュー
- 予備幽閉 × emmurée 対談 (2019年収録)
- 手鞠 × 想
- 健希 × ハルカ
- 殊 × 朋

1st Mini Album
【Drawing Notes】

3,000 yen (tax in)



■収録曲■

1. Prayer
2. HUMAN ERROR (Remastering)
3. 畢生 -hissei-
4. ポラリス
5. Beyond the Landscape (Remastering)
6. 朽澄空
7. Drawing Notes
8. この想いに名前はない

CD は ... 【サイレンス】 ライヴ物販または zoisite shop (通販) にてお求めいただけます

psycho:lens.
3,000 yen (tax in)

- 1.psycho
- 2.faraway
- 3.Crevic
- 4.プラネタリアム
- 5.AQUARIUM
- 6.春誘う風にのせて
- 7.やさしいせなか
- 8.薔薇と十字架の Relief
- 9.Navy daydream
- 10.lens

baby butterfly
1,120 yen (tax in)

- 1.baby butterfly
- 2.散歩にでかけようー愛しのリリィー

Crevic
1,100 yen (tax in)

- 1.Crevic
- 2.星に願いを

DREAMER DREAMER
2,138 yen (tax in)

1. オレンジ色の objet
2. 雨空の stardust
3. ジョハリの窓
4. music star
5. dreamer dreamer
6. ロマンズ
7. 沈む暁、空の穴。

... 【サイレンス】の最新情報はこちらまで!





aki 30 周年記念 だいたい半額 SALE

Khaosnumber レーベル旧譜が半額セールになります。
期間限定です！この機会にぜひ！

【お申し込み期間】

2023年4月23日～6月30日
※在庫の状況で早期に終了する場合がございます。

【商品発送予定】

2023年5月8日より。※セール対象以外の商品を一緒にお求めの場合、まとめてこの日以降に発送いたします。

【特典】

サイン入り未公開ライブフォトを5種類のうちからランダムで1枚おつけします。
※サービス判サイズの写真プリントです。1回のお申し込みで1枚となります。aki 商品であればセール商品以外にもお付けします。

SALE 対象商品 (tax in)



『ユメ、アザヤカ / NIGHT RIDER』

1,650 → 800 yen

01. ユメ、アザヤカ
 02. NIGHT RIDER
 03. ベルトコンペア -LIVE 2012.02.04 at NAGOYA-
※ポーナストラック
 04. GHOSTS -LIVE 2012.02.04 at NAGOYA-
※ポーナストラック
- 発売日：2012年10月24日



『BALANCE / RED ALERT』

1,650 → 800 yen

1. BALANCE
 2. RED ALERT
 3. SHOCK ME -LIVE 2012.02.05 at OSAKA-
 4. 影踏みバレリーナ -LIVE 2012.02.05 at OSAKA-
- 発売日：2012年10月24日



『DISCORD』

3,300 → 1,500 yen

01. LIBERTY
 02. UMBRELLA
 03. DESIRE
 04. 影踏みバレリーナ
 05. ARK IN THE DARK Co., Ltd.
 06. SHOCK ME
 07. ベルトコンペア
 08. GHOSTS
 09. DREAMS
 10. DISCORD
- 発売日：2011年6月8日



『INSPIRE 2nd プレス』

2,933 → 1,500 yen

01. INSPIRE
 02. UTOPIA
 03. GESTALT
 04. EUPHORIA
 05. RED-ZONE
 06. INSPIRE -LIVE 2012.02.04 at NAGOYA-
※ポーナストラック
 07. RED-ZONE -LIVE 2012.02.05 at OSAKA-
※ポーナストラック
- 発売日：2012年11月21日

対象外一般商品 (tax in)

GREED	4,100
OFFICIAL BOOTLEG - 2018.11.16	2,700
OFFICIAL BOOTLEG - 2017.05.20	2,750
OFFICIAL BOOTLEG - 2016.06.25	4,400
REVOLVE	3,300
THE CELL MIXES 2	2,200

aki の最新情報はこちらまで！

Official HP



twitter



The Obsidian Times No.03

The Obsidian Times は zoisite 発行の不定期フリーペーパーです。
これは！というアーティストをこれからも紹介してまいります。
ご意見、ご感想などもお気軽に！
お問い合わせ等はこちらまで→ shop@zoisite.co.jp

通販

zoisite shop
ゾイサイトショップ

